

第3章 小・中学校の研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

総合的な学習の時間の目標・内容から単元までのカリキュラムが、各学校に委ねられていることから、「総合的な学習の時間のカリキュラム評価をどのように進めたらよいか」という当面の課題があった。さらに、カリキュラム評価を行う際、評価の要素が複雑多岐にわたり、具体的にどのように進めていくのかを整理することが必要で、各学校で実践化を図っていくには難しい面があった。

本研究では、総合的な学習の時間のカリキュラム評価の考え方・進め方を示し、各学校で実践することができるようなカリキュラム評価のモデルを提案することができた。カリキュラム評価を行う時期を、この時間のカリキュラムの実施に合わせ時系列的にとらえ、【視点1：実施前】【視点2：実施中】【視点3：実施後】【視点4：カリキュラム全体】と設け、それぞれの視点において重要と思われる評価内容を検討し、重点項目として示した。さらに、その項目で具体的にどのような評価を行うのか、チェック事項として例示したり、考え方・進め方の例を示したりすることができた。

また、カリキュラム評価を進めていくためには、総合的な学習の時間のカリキュラム（目標・内容から単元の評価規準まで）の整合性が重要であり、「問題解決の資質や能力」「自己の生き方」といった構成要素を基に、それらの関連を具体的に示すことができた。カリキュラム評価は、この時間のカリキュラムが適切であるかどうかを、授業における子どもの学びの姿から検討していくものであり、評価規準を見直したり、単元計画を修正したりしていくことになる。そのためには、カリキュラム全体の整合性が前提となるからである。

今後、各学校が、カリキュラム評価を積極的に取り入れていくことによって、特色ある総合的な学習の時間のカリキュラムが毎年更新され、確かな力をはぐくむ総合的な学習の時間へと高まっていくものと期待している。

2 今後の課題

小・中学校の『学習指導要領解説 総則編』に示されている、総合的な学習の時間のねらいは、同じである。このことは、この時間に育てたい資質や能力、問題解決の学び方などを、小・中学校で連携を図りながら進めていくことの必要性を示している。

しかし、現状では、小・中学校の総合的な学習の時間の連携が十分に図られていないために、この時間の目標・内容での重なりが見られたり、「リサイクル活動」や「福祉体験」など単元の活動が同じようなものになったりするなど、いろいろな問題が見られる。

小・中学校がカリキュラムでの連携を図り、小学校第3学年から中学校第3学年までを見据え、「どのような子どもを育てていくのか」という資質や能力、学び方、内容などの面で、それぞれの整合性を踏まえ、連続したカリキュラムを作成していくことが、各小・中学校間での緊急な課題であると考えられる。

また、小学校段階においては、生活科と総合的な学習の時間との連携も考えていく必要がある。生活科は、身近な人や社会、自然と直接かかわる活動や体験を重視している点や学習を通して自分の成長に気付かせていく点等で、総合的な学習の時間と関連が深いからである。

今後は、小・中学校の総合的な学習の時間の連携、小学校における生活科との連携の在り方を研究し、小・中学校の9カ年を見据えた、生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムを、実践を通して明らかにしていきたい。